

英語落語を用いた授業実践： 教材としての可能性

A Report on the Use of English *Rakugo* in EFL Classrooms: Exploring the Applicability of the Materials

久保 岳夫
早稲田実業学校

Abstract

The present paper reports on a case study where *rakugo*, which is a traditional Japanese one-man storytelling, was introduced in EFL CALL classrooms. The purpose of this study is to explore the possibility of English *rakugo* as language learning materials. Some video clips on English *rakugo* were used for the class. With the help of the web-based application *Talkies*, both English (the original language) and Japanese subtitles can be displayed on the students' computers, during which time they are allowed to watch and listen to whichever part they want to refer to for their own learning. At the climax of this one-semester curriculum, the English *rakugo* performer, whom the students had been well familiar with in this computer-assisted-learning environment, was invited to give a real English *rakugo* performance in front of the students. The result of the questionnaire showed that overall many students felt fairly satisfied with the content of the class.

キーワード: English *rakugo*, CALL classrooms, *Talkies*, authenticity

科目名	英語演習 I (必修・学校設定科目)
対象者とクラス人数	高校 1 年生 404 名
学習の目標	CALL 教室環境を利用して、自然な英語を繰り返し聞き込み、リスニング能力の向上を目指す。

1. はじめに

本稿では英語落語を活用した授業実践を紹介する。英語落語とは、その名の示す通り、日本の伝統話芸である落語を英語で行うというものである。目的は主に、日本の落語文化を海外の人に知ってもらうために行われているが、日本で英語落語家として活躍している人はまだ多くないように思われる。著者が知っている英語落語家を数名あげると、外国人であれば、イギリス出身のダイアン吉日氏、カナダ出身の桂三輝（「かつらサンシャイン」と読む）氏などがいる。日本人では、大島希巳江氏（神奈川大学教授）、立川志の春氏などがいる。

著者が英語落語に教材としての魅力を感じた大きな理由は、落語が「想像力」に訴えかける話芸であるからである。日本語の落語同様、英語落語の演者もまた、限られた演出環境の中で聴衆を楽しませなければならない。ステージ上にある一枚の座布団に 1 人の演者が座って話を始める。落語家が演じている内容はト書きがあまりなく、ほとんどが 2 人以上の登場人物間のダイアログである。演者が使用する小道具は手ぬぐいと扇子の 2 種類だけで、極めて限定的なものしか使用できない。聴衆が英語落語を十分に楽しむためには、演者の技術はもちろんのこと、聴衆自身も積極的に「想像力」を働かせ、演者から発せられる様々なセリフをあたかも複数の人が話しているかのごとく頭の中に思い描かなければならない。したがって、演者は限られた演出環境の中で、やや大げさなジェスチャーや声のトーンを使用したり、擬音語などの環境音を多用したり、小道具をいろいろなものに見立てて使用したり、できるだけオーセンティックな状況を作り出すべく、さまざまな工夫を凝らして演出をする。外国語学習という観点から英語落語を考えると、英語落語は極めてオーセンティックな教材になりうると著者は考えている。

教室でオーセンティック教材 (authentic materials) を使用することは外国語学習のプロセスに有益である、という一種の総意のようなものが研究者の間であるとされている (Guariento & Morley, 2001)。オーセンティック教材とは、Nunan(1999)の定義によると、“any material, spoken or written, that has been produced during genuine communication, and not specifically for purposes of language teaching”とあり、英語落語は“genuine communication”を模したものであるため、大げさな演出が組み込まれているため、厳密に言えばいわゆる「オーセンティック教材」ではない。しかし、前述のオーセンティックな状況を作り出す様々な演出上の工夫などを考えると「準オーセンティック教材 (semi-authentic material)」といえるかもしれない。authentic material として定義されているものと、authenticity の度合いに差こそあるものの、英語落語の動画は間違いなくオーセンティックな教材と言える。Kellerman (1991) は、動画教材を用いることで、様々な自然なジェスチャーや表情に触れさせることができ、学習者は communicative

competence を養うことができることを示している。英語落語には、多くの自然なジェスチャーや表情などが溢れており、同様の能力を養うことができると考えられる。以上のような理由から、英語落語動画は外国語教材として有用だと考え、著者の勤務校の授業（学校設定科目）で利用した。なお、本稿の内容は LET 第 56 回全国研究大会（2016 年）で行った公開シンポジウム「TED プレゼンや英語落語などの映像と字幕を利用して読解、聴解、発音指導を効果的に行う ICT 授業実践」で発表したものに基づいている。

2. 授業方法

英語落語を利用した授業は著者の勤務校の高校 1 年生、404 名を対象に行った。1 回の授業の長さは 50 分間で、週 1 回の授業を合計で約 8 回（4 月～6 月の 3 ヶ月間）行った。1 クラスのサイズは約 45 名で、合計 9 クラスにおいて行った（著者はうち 7 クラスを担当）。教材は、YouTube で公開されているバイリンガル落語家ダイアン吉日氏の *The Samurai*（邦題「宿屋仇」）の動画（*Rakugo in English full program, by the City and County of San Francisco 2007*）で彼女の演目の部分のみ（約 25 分）を利用した。動画の学習には *Talkies* というソフトを利用した。*Talkies* とは、ウェブサイトベースの字幕付き動画再生プレーヤーで、の、英語字幕ファイル（srt ファイル）をそれぞれ作成することができる。今回、製作者の田淵龍二氏の協力を仰ぎ、動画を元に英語字幕と日本語字幕を作成した。作成した字幕はサイトから抽出した動画ファイルとともに *Talkies* を利用して生徒に学習させた。*Talkies* を使用すると、2 種類までの字幕情報を同一画面に表示することができ、字幕情報から動画のシーンを検索することも可能になる。また、2 秒程度のチャンク単位の字幕情報が整理されており、Cloze テスト自動作成機能なども備えている。詳しくは *Talkies: Chunk Player Mint* (<http://www.mintap.com/talkies/talkies.html>) を参照していただきたい。授業の実施場所として CALL 教室を使用し、初めは一斉授業、のちに *Talkies* 利用のため個別授業に切り替えた。著者の担当した授業の指示言語は、日本語と英語を必要に応じて切り替えて使用した。授業の全体像を表 1 に示す。

日本語の落語と同様、英語落語には最後にオチがあるため、はじめて鑑賞した際にできただけすべて理解することが重要である。そのため、はじめて生徒に *The Samurai* を鑑賞させた際は、全員が内容を理解できるように日本語字幕のみ与えて鑑賞させた（第 2 回）。話の内容がすべて理解できた状態で、演者のジェスチャーや顔の表情などを参考に個別にディクテーション作業をやらせた（第 3 回、4 回）。動画が長いため、グループで担当箇所を決めて行わせ、後に *Talkies* を利用して答え合わせをさせた（第 4 回）。定期試験は「この 25 分の動画から語彙、表現、内容理解などを出題する」とし、*Talkies* による個別学習を継続させた。*Talkies* を利用させてからは、主にクローズ・テスト機能の使用などを

推奨した。また、活動の幅を広げるため、動画中に登場した 20 個ほどの会話表現を音読・シャドウイング用教材としてピックアップし、CALL 教室の録音・提出機能を利用して発音練習にも従事させた（第 5 回、6 回）。試験直前には、ウェブ上で自宅学習をさせる指導を行った。

表 1. 授業進行表

第 1 回	オリエンテーション/ シラバス配布 / イン트로動画鑑賞	一斉授業
第 2 回	メイン教材 <i>The Samurai</i> の鑑賞（日本語字幕付き）	一斉授業
第 3 回	グループでディクテーション演習（スクリプト作成）	個別学習
第 4 回	ディクテーション演習の続き+ <i>Talkies</i> で答えあわせ	個別学習
第 5 回	センテンス発音練習（シャドーイング）+録音①	個別学習
第 6 回	センテンス発音練習（シャドーイング）+録音②	個別学習
第 7 回	定期試験内容提示+ <i>Talkies</i> で試験対策	個別学習
第 8 回	<i>Talkies</i> で各自試験対策 or 自習	個別学習
定期試験	リスニング問題（20 分弱）+読解問題	
配点 7 割	Cloze テストやセリフを聞いて登場人物を選ぶテストなど	
7 月	ダイアン吉日氏英語落語講演会（全クラス約 400 名参加）	

定期試験は 7 割を英語落語より出題し、3 割を事前に配布していた家庭学習用リスニング問題集より出題した（試験の 63%がリスニング問題）。参考までに授業で提示した英語落語の動画の一部を図 1 に示す。



図 1. 教材英語落語の画面（演者はダイアン吉日氏）

3. 結果・感想

定期試験が終わった後に、高校1年生の学年行事としてダイアン吉日氏本人を招いて実際に英語落語を鑑賞するイベントを行うことができた。半期の間、徹底的に氏の英語落語に親しませていたため、生徒の理解度も高く、イベントも盛況に終わった。定期試験と本イベントの実施前になるが、著者が担当した5クラスで授業アンケートを行った（担当7クラスで実施しようと考えたが、授業時間数などの都合により、5クラスのみの実施となった）。表2と表3に代表的な設問の集計結果を示す。

実際に授業をしていた担当者としての感想は、生徒の満足度はそれなりに高かったように思われる。基本的に教員は細かい指導はせず、生徒主体で学習をさせる計画を立てたが、反省点としては、やや動画が長すぎたこと、生徒の定期試験の不安を早めに解消すべきであったことなどが挙げられる。しかし、教員が細かい指導をせずとも、比較的満足度の高い授業が成立したのは、教材の質が良かったこと、日本語と英語の字幕を同時にチャック単位で表示できる *Talkies* を利用できたことによる教材の使いやすさなどが大きな要因のように感じられた。また、今回扱った教材は、教材として *authenticity* が高いということに加えて、落語というエンターテインメント性の高いものであったことも、生徒が根気よく学習を続けられた要因になっていたとも考えられる。

実際に音声でコミュニケーションが行われる際は、聞こうとしている中心的な言語情報以外に、他の音声情報、視覚情報、さらには嗅覚情報や触覚情報といったありとあらゆる一見余分な情報と思われるものが付きまとう。こうしたものが外国語教育にとって果たして本当に「余分」なのかはわからないが、こうした情報がなければ言語使用のリアルさ、すなわち *authenticity* は失われていくように思われる。学習者が自らの意思で長く学習を継続させていくためには、教材の中にこうした *authenticity* をある程度確保することが必要なのではないかと感じた。著者が今回行った授業では、英語落語を教材として利用したが、他にも同様に良質な音声・映像教材は存在すると思われるので、今後ますます英語教育の現場で利用されていくことを願っている。

末筆になるが、本授業を実施するにあたってミント音声教育研究所の田淵龍二氏には *Talkies* の利用から字幕作成にいたるまで、多大なる協力を賜った。田淵氏の協力がなければ、本授業の実践はあり得なかった。ここに感謝の意を表明させていただく。

表 2. 5段階リッカート尺度に基づくアンケート結果

Question	MEAN (SD)
・ 授業は楽しかったか (大きい=楽しい)	3.98 (0.87)
・ 授業はわかりやすかったか (大きい=わかりやすい)	3.81 (1.02)
・ テストに対する不安はどれくらいあるか (小さい=不安度高い)	1.79 (0.89)
・ 英語での授業 (英語と日本語のハイブリッド授業) 理解できたか (大きい=理解できた)	3.51 (1.11)

表 3. 自由筆記アンケート

一番印象に残っている活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Talkies</i> を使った学習 ・ グループディクテーション作業 ・ 普段は聞かない速いスピードでの聞き取り ・ 自分の英語を録音したこと ・ 一番最初に見た時の <i>The Samurai</i> の動画 ・ 実践的な英語を扱う授業で良かった
改善してほしいこと／ もっとこんなことをしてほ しいと思ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回やることが同じで飽きた ・ 語彙リストを配布してほしかった ・ 大事な指示や注意などは日本語でしてほしかった ・ 試験範囲を狭くしてほしかった ・ もっと話す練習がしたかった ・ 英語を聞いている時は黙っていてほしい ・ PC の操作が難しい ・ 授業数を増やしてほしい

参考文献

- Ryan, J. (2013). Authentic Materials in an EFL Curriculum: Appropriateness, Selection, Activity Design and promoting a Global Perspective. In *The Bulletin of Shizuoka University of Art and Culture*. Shizuoka: Shizuoka University of Art and Culture.
- Kellerman, E. (1991). Compensatory Strategies in Second Language Research: a Critique, a Revision, and Some Implications for the Classroom. In R. Phillipson et al. (eds.) *Foreign/Second Language Pedagogy Research*. Clevedon. UK: Multilingual Matters.
- Nunan, D. (1999). *Designing Tasks for the Communicative Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.

参考 URL

- ・「ダイアン吉日（公式サイト）」, <<http://www.diane-o.com/ja>>
- ・*Rakugo in English full program*(by the City and County of San Francisco 2007),
<<https://www.youtube.com/watch?v=XfOcN7C1p-A>>
- ・*Talkies: The Chunk Player Mint*, <<http://www.mintap.com/talkies/talkies.html>>